

リニューアルオープン記念展 千住博 水の調べ、水の響き

【報道関係各位】

リニューアルオープン記念展

Renewal Opening Commemorative Exhibition
SENJU HIROSHI
The Melody of Water, The Splash of Water

千住博

2026 7/1^{Wed} — 9/6^{Sun}

水の調べ、水の響き

広報
画像
I

《ウォーターフォール・オン・カラーズ》
2023年 佐川美術館蔵

佐川美術館では、リニューアルオープン記念の展覧会として「千住博 水の調べ、水の響き」を開催します。

日本のアートシーンを牽引し、世界的にも高い評価を得ている日本画家・千住博。1995年のヴェネツィア・ビエンナーレにおいて東洋人初の名誉賞受賞をはじめ、数多くの美術賞を受賞し、ワールドワイドな活躍を続けています。

千住博は、自然の中に身を置き、自然を見つめることで、昔も今も変わることのない自然の摂理そのもの

の美しさを描き出してきました。本展では、千住の代名詞である《ウォーターフォール》を中心に、その原点ともいえる《フラットウォーター》から初公開を含めた最新作までを一堂に展覧します。新しく生まれ変わった展示空間で、千住の描く静謐な「調べ」と力強い「響き」を湛えた水の物語をご紹介します。企画です。

展覧会開催概要

- ◆名称：「千住博 水の調べ、水の響き」
- ◆会期：2026年7月1日（水）～9月6日（日）
- ◆休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、7/21
- ◆開館時間：9：30 ～ 17：00（最終入館 16：30）
- ◆入館料：一般 1,600円、高校・大学生 800円、中学生以下無料
※WEB予約で上記料金より各100円引き ※小学生以下は要保護者同伴
※専門学校・専修学校は大学に準じる
※障がい者手帳をお持ちの方（要手帳提示）、付添者（1名のみ）無料

WEB予約制

ご予約時にネット決済による
入館チケット購入をお願いします。

- 主催：佐川美術館（公益財団法人SGH文化スポーツ振興財団） ■監修：千住博（日本画家） ■特別協力：軽井沢千住博美術館
- 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会、読売新聞社、BBCびわ湖放送
- 協力：SGホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

千住博

1958年東京生まれ。東京藝術大学大学院修了。1995年にはヴェネツィア・ビエンナーレで東洋人初の名誉賞を受賞し世界的な注目を集める。日本画の伝統的な技法を基礎としながらも、壮大な自然を現代的な感性で表現し続けている。代表作には「滝（ウォーターフォール）」「崖」「星のふる夜に」シリーズなど。2022年には日本芸術院会員に就任し、現在も国内外で高い評価を得ており、第一線で活躍している。

ウォーターフォール

《ウォーターフォール》シリーズは、千住が自然の本質を見つめることで、作為を捨てて水の流れを描き出した作品です。滝のリアリティを表現するため、筆を介さずに重力を利用して絵具を直接画面に垂らす独自の技法を用いています。「滝」を通して、不変の自然の力＝重力そのものを画面に表現することに挑んでいます。

展示構成

本展では四つの視点から、千住が描く多様な水の表情をご紹介します。

1. フラットウォーター
2. ウォーターフォール・オン・カラーズ
3. BLACK LIGHT ROOM
4. 伝統と革新

注目作品

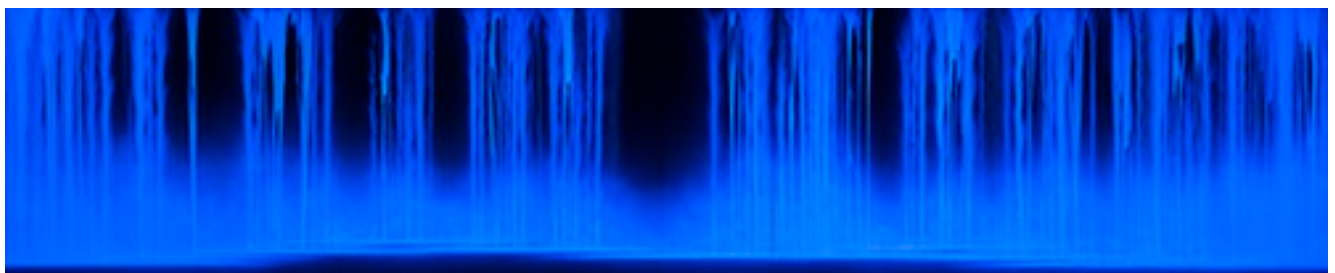
古典と今が響き合う、未だ見ぬ夜の表現。

千住は日本画の伝統的な画材だけでなく、現代的な素材である**蛍光塗料**にも興味を示し、作品に取り入れています。千住は蛍光塗料とブラックライトに、怪しげで神秘的な夜の雰囲気と人間の繊細な心情表現を託しました。本展では蛍光塗料で描かれた《龍神Ⅰ・Ⅱ》を、ブラックライトを使用した空間に展示することで、**未知の視覚体験**を通じて、千住が描き出した「現代の夜」を展観します。



広報
画像
II

《フラットウォーター#9》1993年 軽井沢千住博美術館蔵



※画像は作品にブラックライトを照射したものです

《龍神Ⅰ》 2015年 軽井沢千住博美術館蔵

リニューアルオープン記念展 千住博 水の調べ、水の響き

歴史を尊び、今を拓く。

千住の、「日本画の伝統と現代美術の融合」という挑戦は、近年古裂を用いた掛軸作品へと昇華されています。

歴史や既存の価値観を尊重してこそ、挑戦の意識が生まれて創造的な作品に繋がると考える千住は、常に日本画の可能性を探ってきました。

伝統的な掛軸と革新的な日本画《ウォーターフォール》の融合は、**時代を超えた美の共演**です。伝統と革新が融合した千住芸術の最新到達点をご紹介します。



広報
画像
III

《ウォーターフォール (夏)》
2023年 佐川美術館蔵

見上げる、立ち尽くす、飲み込まれる。

本展では、縦2メートル、横5メートルを超える大型作品を、**圧倒的なスケール**で展覧します。中でも、コロナ禍に発表された《ウォーターフォール・オン・カラーズ》は、滝の内側から外をのぞくような視点で描かれており、滝つぼの色は世界を彩る全ての絵具を混ぜ合わせたものとして表現されています。人間の**多様性と創造性**、そしてそれらの**調和と共生**を暗喩しています。

視界を覆いつくす巨大な作品を前にすると、その美しさに圧倒され、滝が流れ落ちる轟音あるいは繊細な飛沫の音が聴こえてくるようです。それは、単なる作品鑑賞の枠組みを超えて、作品世界へ入り込んだかのような**かつてない没入体験**となります。

また、当館の展示室は改修工事を経て、装いを新たにしました。2つの展示室を接続し、天井高を1メートル引き上げることで、大型作品の魅力を最大限に引き出す開放的な空間を創出しました。

迫りくる滝に身を委ねるのか、ベンチに腰掛け静寂の時を過ごすのか。新たな展示空間でお客様それぞれの鑑賞方法、**作品との対話**の形を見出していただければ幸いです。



広報
画像
IV

《ウォーターフォール・オン・カラーズ》2022年 佐川美術館蔵

●広報用画像について

本プレスリリース中に掲載している画像データ（**広報画像と記載されているもの**）をご用意しております。画像データをご希望の方は、同封の**作品画像使用申込書（プレゼント用無料観覧券申込付）**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。当館ホームページ（<https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>）からも画像申請いただけます。

画像使用にあたり、各画像に必ず申込書記載のキャプションと著作権表記を付けてください。また、画像のトリミング、オーバープリント、上書き、改ざんはできません。画像は使用后必ず削除し、保存しないでください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。

原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に日数を要するため、お早めにお問い合わせ致します。

◆交通のご案内：

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神・瀬田西 IC から湖周道路経由 （約 30 分）
- 名神・栗東 IC から守山栗東線経由 （約 30 分）
- 名神・京都東 IC から湖西道路（真野 IC）・琵琶湖大橋経由 （約 40 分）

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線 守山駅から路線バス 「佐川美術館」下車 （約 35 分）
- JR 湖西線 堅田駅から路線バス 「佐川美術館」下車 （約 15 分）

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 S G H文化スポーツ振興財団
佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891
TEL：077-585-7800／FAX：077-585-7810

企画担当学芸員：井上 英明（いのうえ ひであき）、栗田 頌子（くりた しょうこ）

【企画に関するお問い合わせ（井上）】 h_inoue004@sagawa-artmuseum.or.jp

【プレスに関するお問い合わせ（栗田）】 s_kurita@sagawa-artmuseum.or.jp

